



七夕 予備日8月7日

毎年、七夕の7月7日は、日本では梅雨の真っ最中。夜空の星座を見上げて、七夕の物語に思いを馳せようとしても、あいにくの悪天候ということも多いです。先日の七夕の夜は、全くそれどころではありませんでした。日本では月遅れの七夕を8月7日に行っている地域も多いです。雨天予備日ですね。2度行うのも一手。旧暦の7月7日は、今年でいうと8月25日。しかし、この日にはさすがに遅いですね。というのも、七夕はお盆を迎える準備の意味もあるそうなんです。だから、お盆を8月に行うなら、七夕は7日が適当ですね。

そこで、星座のお話の続編。星座にまつわる神話です。

七夕の物語 中国から伝わったお話です。

天帝の娘の織女（日本名は織り姫）はとても機織り上手。天の川の岸部に住み、毎日、機織りに励んでいました。仕事ばかりしている娘をかわいそうに思った天帝は、対岸に住む、やはり働き者の牛飼いの牽牛（日本名は彦星）と結婚させました。ところが、結婚後の2人は毎日が楽しくて、仕事を怠けて遊んでばかりいました。これに怒った天帝は、2人をもとの天の川の両岸に引き離し、年に一度、7月7日の夜にだけ会うことを許したのです。

オルフェウスの竖琴(こと座) ギリシャ神話

ギリシャ第一の音楽の名手オルフェウスは、妻エウリディケを亡くし、嘆き悲しんでいました。何としても生き返らせたいと思い、暗く険しい地下の道を通って、死の国へと下りていきました。ところが、死の国の渡し守カロンは、死んでいないオルフェウスを渡してくれません。しかし、妻を思うオルフェウスの悲しみに満ちた琴の音色を聞くと、黙って通してくれました。やがて、死の国の大王プルトーンに出会いました。「どうか、今一度、妻をお返しください」「そんな前例のないことなど、できるはずもない」しかし、オルフェウスが心を込めて琴を奏でると、心を打たれた大王が言いました。「地上に出るまでは、決して妻の方を振り返ってはならぬぞ」オルフェウスは天にも昇る心地で、妻を後ろに、帰り道を急ぎました。

そして、この世の懐かしい光が、洞穴の入り口から差し込むのを見つけると、思わず妻の方を振り返ってしまいました。そのとたん、エウリディケの姿はかき消えてしまったのです。「ああ、なんてことだ！」オルフェウスはまた引き返しましたが、もう誰も相手にしてくれません。悲しみにくれたオルフェウスは、悲しい琴の音を奏でながら、山野をあてどなくさまよい、やがて死にました。そんなオルフェウスを哀れに思った大神ゼウスは、琴を星空に上げて星座としました。今でも、静かな夜にはオルフェウスの悲しく美しい琴の音色が聞こえてくるのです。

美少年をさらった大鷲(わし座) ギリシャ神話

大神ゼウスは、美しくりりしいガニメデス少年がお気に入りでした。そんなおり、オリンポス山の神々の酒宴の席でお世話をする娘がやめることになりました。そこでゼウスは、美少年ガニメデスをその後がまにしようと、大きな黒鷲に変身して、ガニメデスを襲い、さらって、お世話係にしたということです。事実、わし座と、

秋の星座のみずがめ座（ガニメデス少年）とは、斜め隣り合わせになっています。古い星図には、大鷲が少年をさらうような姿が描かれているそうです。この少年は、ローマ皇帝ハドリアヌスに愛されたアンティノウスという美少年で、皇帝の長寿を願う身代わりとして、自らの命を絶ったと言われています。現在にはない星座です。（ローマ神話は、多くはギリシャ神話を取り入れ、変更しています。）

星座には、このように美しく、悲しく、あるいは壮大な物語がたくさんあります。もちろん冬の星座にも。でも、子どもには、悲しい部分は省略してください。

教育一口メモ

コロナ禍は私たちの生活に、大小様々な多くの影響を及ぼしています。私の身近では、その一つが「朝のあいさつ」です。3月からハイタッチは自粛していました。初めは、習慣でついタッチをしてくる子、私がわざと外していると思って飛びついてくる子、「そうなんだ」と理解して納得する子など、様々でしたが、そのうち当たり前になりました。今ではほとんど反応はありません。

マスクをするようになったら、あいさつの声が遮蔽されて聞こえてきません。口の動きも見えません。そして、もしかしたらあいさつをしていないのかも知れません。あいさつしないので済むなら、「ま、いいか」みたいな感じさえます。もちろん、元気な聞こえる声であいさつしてくる子も多くいます。

それはお家の方々にも言えます。体温表を提出する関係上、あいさつするタイミングで子どものカバンから体温表を出していたり、職員に体温表を渡すタイミングだったり。フェンス内に入らない関係上、私との距離も遠いので、あいさつの必要もありません。（私が外に出ていると邪魔になると思うので、フェンス内にいます）

これらの障害をカバーしてあまりある方法があります。目線と会釈です。声は小さくて聞こえなくても、子どもと目が合うと、確かな繋がりを感ずるので。中には会釈を加える子もいます。手を振ってくれる子もいて、私も振り返ります。さすがに、お家の方に手を振るのは気恥ずかしく、差し控えております。

園の風景

★ 花組お昼寝

夏場だけ実施しています。まだ体力も一日はもちません。子どもが眠っている姿って、本当に可愛いですね。「密」にならないようにしています。



←★ 中庭遊び

こちらは雪組です。お昼寝ではありません。

★ 星組説明会

コロナの影響で、今年は9月から開始です。応募が多く、くじ引きになってしまいました。

